

“きこえない自分”と向き合おう

みなさんは、きこえない・きこえにくいときに「もう一度聞き返すことが面倒くさい…」「たぶん、ああいうことを言っているだろう…」と思い込んで、“分かったふり”をしていませんか。結果的に、たまたま解決できたこともあれば、失敗や後悔をしてしまうこともあるでしょう。

「情報保障」という言葉を聞いたことはありますか。きこえない、きこえにくくて困ったときに他の方法で情報を伝えることを「情報保障」といいます。きこえない、きこえにくい私たちが、きこえる人とともに楽しい学校生活や豊かな社会生活を送っていくためには、きこえる人と同じ情報を得ることがとても大切です。みなさんも「情報保障」について勉強し、自分の力で必要な情報を集められるようにしましょう。

1. 「情報保障」の種類

しゅわ 手話	ひつたん 筆談	しゅわつうやく 手話通訳
手話でのやりとりができるときによく使います。 (場面) 1対1または少人数	手話ができない人と短時間で済む話の時に使います。 (場面) 販売店、コンビニ、駅など	県に手話通訳者の派遣をお願いして通訳してもらいます。 (場面) 講演会、外部での会議など

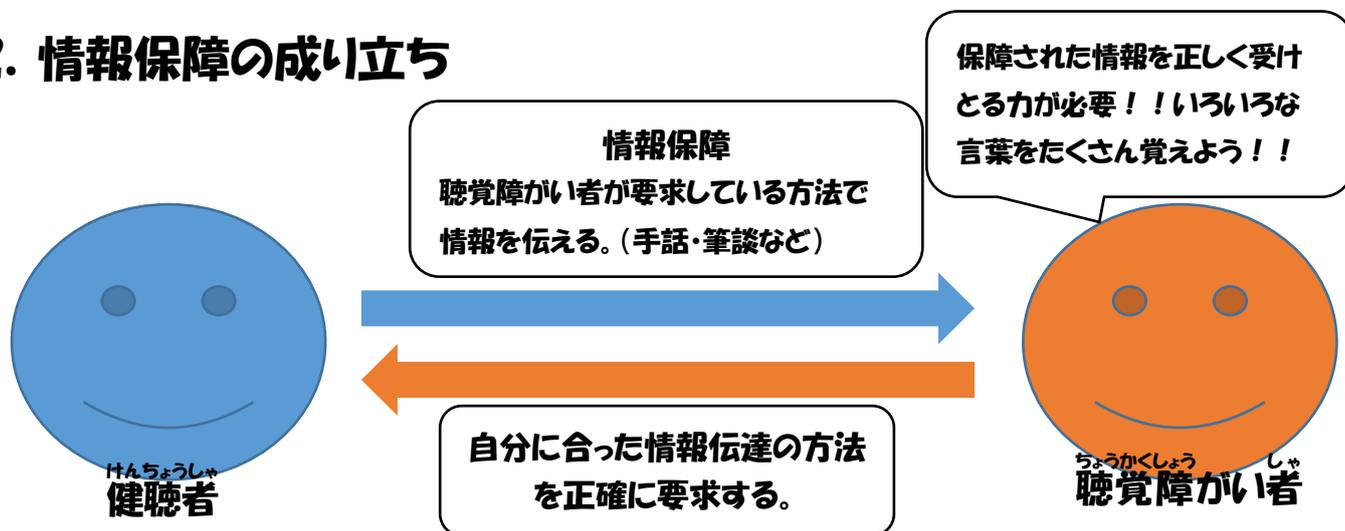
ノートテイク	パソコンテイク
ノートテイクがついて、交代しながら筆談してもらいます。 (場面) 大学での講義、会議など	パソコンで要約する方法。パソコン技術がかなり求められている。 (場面) 大学での講義、会議など

でんわ 電話リレーサービス	おんせいにんしき 音声認識アプリ
電話しか連絡方法がない場合に役立つ。 (場面) ホテルや病院等の予約・注文	音声認識をして文字化するアプリ。誤認識する可能性があるため、必要に応じて筆談を交えて保障してもらうこともあります。 (場面) 長時間の会議、打合せなど

えんかくしゅわつうやく 遠隔手話通訳	しゅわ 手話フォン
手話通訳者がタブレット端末画面越しに、手話通訳を行う。 (場面) 市役所、販売店、相談など	電話リレーサービスと同じで、聴覚障がい者用の電話ボックス。 (場面) 羽田空港

このように情報保障の方法は手話や筆談以外にいろいろな方法があります。場面に応じて、自分に合った方法を受けることが大切だと思います。

2. 情報保障の成り立ち



情報を受ける側だけでなく、自分から情報を発信するときも、“きこえる人に対しての情報保障”が必要になります。また、きこえない・きこえにくい人に対しても、同じことが言えます。障がいのある人もない人も「共に人間らしく生きていく」ための環境を整えることができるようにしましょう。